

MENU

SEARCH

INDEX

DETAIL

JAPANESE

1 / 1

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-355261

(43)Date of publication of
application : 26.12.2000

(51)Int.Cl.

B60R 21/22

(21)Application number : 11-165678

(71) Applicant : TOYODA GOSEI CO LTD
TOYOTA MOTOR CORP

2)Date of filing : 11.06.1999

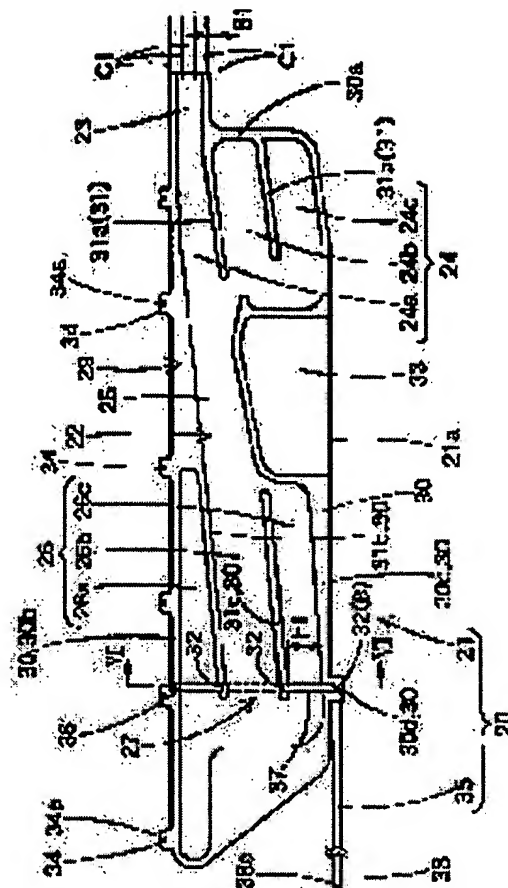
(72)Inventor : TANASE TOSHINORI
ONO MITSUYOSHI
URUSHI NORIO

(54) AIR BAG OF HEAD PROTECTION AIR BAG DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To bring out a tensile force, particularly, on a lower fringe side of an air bag at the time of its inflation.

SOLUTION: This air bag 20 is folded down and stored on an upper fringe side of a peripheral fringe of an opening on an indoor side and is inflated so as to block the opening on the indoor side at the time of development and inflation to apply tensile force on a lower fringe side. The air bag 20 is provided with an air bag body 21 and a belt part 35. The air bag body 21 is provided with a tensile force-displaying inflation part 27 in which gas for inflation flows and a non-inflation part 30 arranged around the tensile force-displaying inflation part 27 on a front end side thereof. The belt part 35 has such length that can generate tensile force at the time of development and inflation of the air bag body 21, a root part 36 side is fixed on an upper fringe side 30b of the tensile force-displaying inflation part 27, and a tip part 38 side is extended downward along an outer peripheral face of the tensile force-displaying inflation part to insert lower fringe side 30d of the tensile force-displaying inflation part and is fixed on the peripheral fringe of the opening away forward from the air bag body 21.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

27.12.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-355261
(P2000-355261A)

(43) 公開日 平成12年12月26日 (2000. 12. 26)

(51) Int. Cl.⁷
B 6 0 R 21/22

識別記号

F I
B 6 0 R 21/22

特許ト (参考)
3 D 0 5 4

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 19 頁)

(21) 出願番号 特願平11-165678

(22) 出願日 平成11年6月11日 (1999. 6. 11)

(71) 出願人 000241463

豊田合成株式会社

愛知県西春日井郡春日町大字落合字長畑 1
番地

(71) 出願人 000003207

トヨタ自動車株式会社

愛知県豊田市トヨタ町 1 番地

(72) 発明者 棚瀬 利則

愛知県西春日井郡春日町大字落合字長畑 1
番地 豊田合成株式会社内

(74) 代理人 100076473

弁理士 飯田 昭夫 (外 1 名)

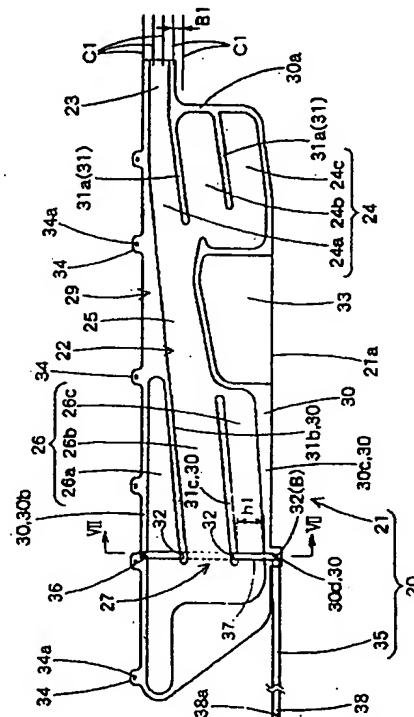
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 頭部保護エアバッグ装置のエアバッグ

(57) 【要約】

【課題】 膨張時、エアバッグの下縁側に特に張力を発揮させることができる頭部保護エアバッグ装置のエアバッグを提供すること。

【解決手段】 エアバッグ 20 は、車内側の開口周縁の上縁側に折り畳まれて収納され、展開膨張時に、車内側の開口を塞ぐように膨張して、下縁側に張力が加えられる。エアバッグ 20 は、エアバッグ本体 21 とベルト部 35 と、を備える。エアバッグ本体 21 は、前端側に、膨張用ガスを流入させる張力発揮用膨張部 27 と、張力発揮用膨張部の周囲に配置される非膨張部 30 と、を備える。ベルト部 35 は、エアバッグ本体の展開膨張時に張力を発生可能な長さとして、元部 36 側を、張力発揮用膨張部の上縁側 30 b に固着させ、先端部 38 側を、張力発揮用膨張部の外周面に沿って下方へ延ばして、張力発揮用膨張部の下縁側 30 d を挿通させ、さらに、エアバッグ本体から前方に離れた開口周縁に固着させている。



【0005】本発明は、エアバッグの膨張時、エアバッグの下縁側に特に張力を発揮させることができる頭部保護エアバッグ装置のエアバッグを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明に係る第1番目のエアバッグは、車内側の開口周縁の上縁側に折り畳まれて収納され、展開膨張時に、車内側の前記開口を塞ぐように膨張して、下縁側に張力が加えられる構成の頭部保護エアバッグ装置のエアバッグであって、可撓性を有するエアバッグ本体とベルト部とを備えて構成され、前記エアバッグ本体が、前後方向の端部側に、膨張用ガスを流入させる張力発揮用膨張部と、該張力発揮用膨張部の周囲に配置される非膨張部と、を備えて構成され、前記ベルト部が、前記エアバッグ本体の展開膨張時に張力を発生可能な長さとして、元部側を、前記張力発揮用膨張部の上縁側の前記非膨張部に固着させ、先端部側を、前記張力発揮用膨張部の外周面に沿って下方へ延ばして、前記張力発揮用膨張部の下縁側の前記非膨張部を挿通させ、さらに、前記エアバッグ本体から前後方向に離れた前記開口周縁に固着させていることを特徴とする。

【0007】本発明に係る第2番目のエアバッグは、車内側の開口周縁の上縁側に折り畳まれて収納され、展開膨張時に、車内側の前記開口を塞ぐように膨張して、下縁側に張力が加えられる構成の頭部保護エアバッグ装置のエアバッグであって、膨張用ガスを流入可能に前後方向に離れて配置される前膨張部と後膨張部とを備えて構成され、前記前膨張部と前記後膨張部との間の下部側に、前記前膨張部と前記後膨張部とを前後方向に連通して、膨張時に前記前・後膨張部の対向する下縁相互を接近させるように引張可能な複数の連通膨張部が、上下方向に並設されていることを特徴とする。

【0008】本発明に係る第3番目のエアバッグは、車内側の開口周縁の上縁側に折り畳まれて収納され、展開膨張時に、車内側の前記開口を塞ぐように膨張して、下縁側に張力が加えられる構成の頭部保護エアバッグ装置のエアバッグであって、可撓性を有したエアバッグ本体とベルト部とを備えて構成され、前記エアバッグ本体が、前記エアバッグ本体の前後方向の端部における上部側に、展開膨張時に前記エアバッグ本体から遠ざかる前後方向に突出するように膨張可能として、折り畳まれた突出膨張部を備え、前記ベルト部が、前記エアバッグ本体の展開膨張時に張力を発生可能な長さとして、前記突出膨張部の突出端側と前記突出膨張部の元部側における前記エアバッグ本体の下縁側に固着されていることを特徴とする。

【0009】本発明に係る第4番目のエアバッグは、車内側の開口周縁の上縁側に折り畳まれて収納され、展開膨張時に、車内側の前記開口を塞ぐように膨張して、下縁側に張力が加えられる構成の頭部保護エアバッグ装置

のエアバッグであって、可撓性を有したエアバッグ本体とベルト部とを備えて構成され、前記エアバッグ本体が、前記エアバッグ本体の前後方向の端部における上部側に前後方向に配置されて、展開膨張時に先細り状に膨張するテーパ膨張部を備え、前記ベルト部が、前記エアバッグ本体の展開膨張時に張力を発生可能な長さとして、前記テーパ膨張部における先端側の外径に対応した内径を有したリング部を先端側に備え、該リング部を前記テーパ膨張部に外装させて、元部側を、前記テーパ膨張部の元部側における前記エアバッグ本体の下縁側に、固着させていることを特徴とする。

【0010】本発明に係る第5番目のエアバッグは、車内側の開口周縁の上縁側に折り畳まれて収納され、展開膨張時に、車内側の前記開口を塞ぐように膨張して、下縁側に張力が加えられる構成の頭部保護エアバッグ装置のエアバッグであって、可撓性を有したエアバッグ本体とベルト部とを備えて構成され、前記エアバッグ本体が、前記エアバッグ本体の前後方向の端部における上部側に前後方向に配置されて、展開膨張時に折り角を解消して下方へ膨らむように膨張する棒状膨張部を備え、前記ベルト部が、前記エアバッグ本体の展開膨張時に張力を発生可能な長さとして、元部側を前記棒状膨張部の元部側における前記エアバッグ本体の下縁側に固着させるとともに、先端部に設けたスリットに前記ベルト部の中間部位を挿通させてなるループ部に、折り畳んだ前記棒状膨張部をくるませていることを特徴とする。

【0011】

【発明の効果】本発明に係る第1番目の頭部保護エアバッグ装置のエアバッグでは、展開膨張時、エアバッグ本体の張力発揮用膨張部が膨張すれば、張力発揮用膨張部の外周面に沿って配置されたベルト部の元部側が、張力発揮用膨張部の膨張にともなって、張力発揮用膨張部の下縁側を挿通しているベルト部の先端部側を引き込む。そのため、ベルト部に張力が発揮され、ベルト部が、挿通している張力発揮用膨張部の下縁側を、開口周縁に固着させた先端部側に、引っ張ることによって、エアバッグ本体の下縁側に張力が発揮される。

【0012】したがって、本発明に係る第1番目の頭部保護エアバッグ装置のエアバッグでは、エアバッグ本体の下縁側に特に張力を発揮させることができ、乗員拘束時、エアバッグの車外側への移動を抑えることができる。

【0013】本発明に係る第2番目の頭部保護エアバッグ装置のエアバッグでは、展開膨張時、前膨張部と後膨張部とが展開膨張して、複数の連通膨張部も膨張すると、連通膨張部の配置部位では、上下方向と前後方向とでそれぞれの長さを短くするように、張力が生ずる。そして、複数の連通膨張部は、エアバッグの下部側に配置されているため、前膨張部と後膨張部との下縁相互を接近させるように、引っ張り、その結果、エアバッグの下

開して、厚さを増すように膨張する膨張部22と、膨張用ガスを流入させない非膨張部29と、を備えて構成されている。なお、エアバッグ本体21では、袋織りして各部22・29を形成した後、耐熱性とシール性とを高めるために、表面側にシリコン等を塗布しても良い。

【0028】膨張部22は、ガス流入部23、後膨張部24、連通部25、及び、前膨張部26から構成されている。後・前膨張部24・26は、エアバッグ20の展開膨張時、それぞれ、車両の後席と前席との側方付近の開口Wを覆うように配設されている。

【0029】ガス流入部23は、後端を開口させた円筒形状として、膨張部22の後端側に配置されている。ガス流入部23は、インフレーター16を挿入させ、取付ブラケット17によって、インフレーター16側に締め付けられることにより、インフレーター16と連結されることとなる。なお、ガス流入部23の内周面側には、耐熱性を確保するために、別途、エアバッグ本体21自体と同じ材料等から形成したインナチューブを固着させても良い。

【0030】後膨張部24は、ガス流入部23と上部で連通されて、非膨張部29の後述する2個の後規制部31a・31aによって上下方向に三室に分割された分割室24a・24b・24cから、構成されている。

【0031】前膨張部26は、後膨張部24の上部から延びる連通部25と上部を連通させて、非膨張部29の後述する2個の前規制部31b・31cによって上下方向に三室に分割された分割室26a・26b・26cから、構成されている。そして、実施形態の場合には、各分割室26a・26b・26cの前端側が、張力発揮用膨張部27を構成している。

【0032】非膨張部29は、エアバッグ本体21の外周縁で気密性を確保できるように密に織成される周縁部30と、後・前膨張部24・26の領域に侵入するように配置される規制部31と、後・前膨張部24・26の下部相互間を連結するように配設される板状部33と、から構成されている。規制部31は、後・前膨張部24・26の膨張時の厚さを略一定にするために配設されるものであり、周縁部30の後縁30aから後膨張部24内に延びる上下二段の後規制部31a・31aと、周縁部30の上縁30bの中央付近から斜め前下方で前膨張部26内に延びる前規制部31bと、周縁部30から離れて前規制部31bの下方で前規制部31bと平行に延びる前規制部31cと、から構成されている。板状部33は、エアバッグ本体21の膨張部22の容積を少なくして、エアバッグ本体21の外形形状を確保するために配設されている。

【0033】そして、非膨張部29における張力発揮用膨張部27の部位には、前規制部31b・31cの前端と周縁部30の下縁30cにおける先端部30dとの部位に、車内側と車外側とを連通させるように、ベルト部

35を挿通させる挿通孔32が形成されている。

【0034】また、周縁部30の上縁30b側には、複数の取付部34が形成されている。各取付部34には、それぞれ、中央に、取付ボルト41（図1～3参照）を挿通させる取付孔34aが袋織り後の孔明け加工により形成されている。また、各取付部34には、図1～3に示すように、折り畳まれたエアバッグ20をボディ1のインナパネル7やルーフサイドレール本体8に取り付けるための板金製の取付ブラケット40が固定されることとなる。

【0035】各取付ブラケット40は、取付部34を間にした車内側の内プレート40aと車外側の外プレート40bとから構成され、内・外プレート40a・40bの間に各取付部34を介在させて、内・外プレート40a・40b相互を部分的にかしめて各取付部34に取り付けている。内・外プレート40a・40bには、各取付部34の取付孔34aに対応する取付孔40cが貫通されている。そして、図2・3に示すように、取付ボルト41を、取付孔40c・34aに挿通させて、インナパネル7やルーフサイドレール本体8の取付孔7a・8a周縁に固着されたナット7b・8bに螺合させることにより、折り畳まれたエアバッグ本体21がボディ1に取り付けられることとなる。

【0036】ベルト部35は、可撓性を有したポリアミド系等の織布から形成された帯状として構成されている。そして、図5・7に示すように、ベルト部35の元部36が、張力発揮用膨張部27の上縁側における周縁部上縁30bの車内側に縫合して固着され、元部36から先端部38側に向う中間部37が、張力発揮用膨張部27における分割室26aの車内側の面に沿って下方に延びて、前規制部31bの挿通孔32を挿通し、ついで、分割室26bの車外側の面に沿って下方に延びて、前規制部31cの挿通孔32を挿通し、さらに、分割室26cの車内側の面に沿って下方に延びて、周縁部下縁30cにおける先端部30dの挿通孔32を挿通している。そして、先端部38が、エアバッグ本体21から離れた開口Wの周縁におけるフロントピラー本体4の下方のサイドパネル2にボルト39止め（図1参照）されている。先端部38には、取付ボルト39を挿通させる取付孔38aが形成されている。ベルト部35の長さは、エアバッグ本体21を単体で車両へ取り付けた際の展開膨張状態での、上方側の元部36の固着部位から、前規制部31bの挿通孔32・前規制部31cの挿通孔32・周縁部下縁先端部30dの挿通孔32を経た分割室26aの車内側周面・分割室26bの車外側周面・分割室26cの車内側周面の長さ、周縁部下縁先端部30dの挿通孔32からベルト部先端部38の開口Wの周縁への固着部位までの長さ、を合計した長さより、所定寸法小さく設定されて、ベルト部35を連結したエアバッグ本体21の展開膨張時に、後述するように、ベルト部

37を張力発揮用膨張部27の下縁先端部30dの挿通孔32Bに直接挿通させて、サイドパネル2に先端部38を固着させても良い。

【0048】さらにまた、第1実施形態では、エアバッグ本体21の膨張部22における後端側にガス流入部23を配置させて、膨張部22の前端側に張力発揮用膨張部27を配設した場合を示したが、ガス流入部23をフロントピラー部PFに配置させ、ベルト部35を対応させて、張力発揮用膨張部27をエアバッグ本体21の後端側に配置させても良い。

【0049】つぎに、第2実施形態のエアバッグ50について説明する。第2実施形態のエアバッグ50は、図9に示すように、第1実施形態のエアバッグ20と同様に、頭部保護エアバッグ装置M2に使用されるものである。この頭部保護エアバッグ装置M2は、エアバッグ50がエアバッグ装置M1のエアバッグ20と異なる他、他のエアバッグカバー11・インフレーター16・取付ブラケット17・40等が同一であり、それらに同一符号を付して説明を省略する。

【0050】そして、エアバッグ50は、図9～12に示すように、可撓性を有した袋状として、ポリアミド糸等を使用した袋織りによって形成されている。エアバッグ50は、インフレーター16からの膨張用ガスを流入させて、折り畳み状態から展開して、厚さを増すように膨張する膨張部52と、膨張用ガスを流入させない非膨張部59と、を備えて構成されている。なお、このエアバッグ50でも、袋織りして各部52・59を形成した後、耐熱性とシール性を高めるために、表面側にシリコン等を塗布しても良い。

【0051】膨張部52は、ガス流入部53、後膨張部54、連通部55、前膨張部56、及び、連通膨張部57から構成されている。後・前膨張部54・56は、相互の前後方向に離れて配置されて、エアバッグ50の展開膨張時、それぞれ、車両の後席と前席との側方付近の開口Wを覆うように配設されている。

【0052】ガス流入部53は、後端を開口させた円筒形状として、膨張部52の後端側に配置されている。ガス流入部53は、インフレーター16を挿入させ、取付ブラケット17によって、インフレーター16側に締め付けられることにより、インフレーター16と連結されることとなる。なお、ガス流入部53の内周面側にも、耐熱性を確保するために、別途、エアバッグ50自体と同じ材料等から形成したインナチューブを固着させても良い。

【0053】後膨張部54は、ガス流入部53と上部で連通されて、非膨張部59の後述する2個の後規制部61a・61bによって上下方向に三室に分割された分割室54a・54b・54cから、構成されている。

【0054】前膨張部56は、後膨張部54の上部から延びる連通部55と上部を連通させて、非膨張部59の

後述する2個の前規制部61b・61cによって上下方向に三室に分割された分割室56a・56b・56cから、構成されている。

【0055】連通膨張部57は、前膨張部56と後膨張部54との間の下部側で、前膨張部56と後膨張部54とを前後方向に連通するように、上下方向に複数（実施形態では5個）並設されている。各連通膨張部57の寸法形状は、各連通膨張部57の展開膨張時、後・前膨張部54・56の対向する下縁54d・56dを、相互に接近可能な寸法に設定されている。ちなみに、この各連通膨張部57の寸法形状の設定は、図10に示すように、立体的に展開することなく、エアバッグ50を非膨張の平らに展開した状態で、各連通膨張部57を単に前後方向に配設するように、設定すれば良い。実施形態の場合には、エアバッグ50を袋織りで形成しており、第1実施形態のエアバッグ20における板状部33の部位の相当する部位の袋織り時、図12に示すように、車内側の壁部50aと車外側の壁部50bとに単に分離させるように織成するだけで良い。

【0056】非膨張部59は、エアバッグ50の外周縁で気密性を確保できるように密に織成される周縁部60と、後・前膨張部54・56の領域に侵入するように配置される規制部61と、から構成されている。規制部61は、周縁部60の後縁60aから後膨張部54内に延びる上下二段の後規制部61a・61aと、周縁部60の上縁60bの中央付近から斜め前下方で前膨張部56内に延びる前規制部61bと、周縁部60から離れて前規制部61bの下方で前規制部61bと平行に延びる前規制部61cと、各連通膨張部57を区画する区画規制部61dと、から構成されている。周縁部60の上縁60b側には、取付ブラケット40を取り付けるための取付孔64aを備えた複数の取付部64が形成されている。

【0057】つぎに、第2実施形態のエアバッグ50を車両に装着する作業について説明すると、第1実施形態と同様に、まず、周縁部60の上縁60bに沿う前後方向の折目を多数付けて、エアバッグ50の下縁60cから上縁60b側へ蛇腹折りする。折り畳んだ後には、折り崩れしないように、所定間隔で破断可能なテープ材を巻き付けておく。

【0058】そして、折り畳んだ後には、各取付部64に取付ブラケット40を取り付けるとともに、ガス流入部53にインフレーター16を挿入し、ガス流入部53の外周に取付ブラケット17を取り付けて、エアバッグ組立体を形成しておき、車両への取付待機状態としておく。

【0059】その後、取付ブラケット17をリヤピラー本体9の所定位置に配置させて、ボルト18止めし、各取付ブラケット40をインナパネル7やルーフサイドレール本体8の所定位置に配置させてボルト41止めす

着され、ベルト部85の先端部88が、突出膨張部77の突出端側、すなわち、周縁部80の前縁先端部80eに固着されている。

【0072】このベルト部85の長さは、エアバッグ本体71を単体で車両へ取り付けられた際の展開膨張時における突出膨張部77が突出した状態での、周縁部80における下縁先端部80dから前縁先端部80eまでの長さより、所定寸法小さく設定されて、ベルト部85を固着させたエアバッグ本体71の展開膨張時において、後述するように、ベルト部85に張力が発生するように設定されている。

【0073】つぎに、第3実施形態のエアバッグ70を車両に装着する作業について説明すると、まず、図15に示すように、突出膨張部77を分割室76aの内部に折り込むようにカクタス折りで折り畳む。なお、この時、前縁先端部80eは、折り込まれた分割室76aの前端側に配置させておく。ついで、第1実施形態と同様に、周縁部80の上縁80bに沿う前後方向の折目を多数付けて、エアバッグ70の下縁80cから上縁80b側へ蛇腹折りする。折り畳んだ後には、折り崩れしないように、所定間隔で破断可能なテープ材を巻き付けておく。

【0074】そして、折り畳んだ後には、各取付部84に取付ブラケット40を取り付けるとともに、ガス流入部73にインフレーター16を挿入し、ガス流入部73の外周に取付ブラケット17を取り付けて、エアバッグ組立体を形成しておき、車両への取付待機状態としておく。

【0075】その後、取付ブラケット17をリヤピラー本体9の所定位置に配置させて、ボルト18止めし、各取付ブラケット40をインナパネル7やルーフサイドレール本体8の所定位置に配置させてボルト41止めする。そして、フロントピラーガーニッシュ12・ルーフ内装材13・リヤピラーガーニッシュ14をボディ1に取り付ければ、頭部保護エアバッグ装置M3を車両に装着することができる。

【0076】そして、車両への装着後、インフレーター16が作動されれば、インフレーター16からの膨張用ガスGが、図17に示すように、ガス流入部73を経て後膨張部74・連通部75・突出膨張部77を含めた前膨張部76に流入することとなる。その際、エアバッグ70は、巻き付けていた図示しないテープ材を破断させるとともに、フロントピラーガーニッシュ12・ルーフ内装材13・リヤピラーガーニッシュ14の後パネル14bを押して、それぞれのドア部12a・13a・14cを開かせ、図13の二点鎖線で示すように、開口Wを覆うように、大きく膨張することとなる。

【0077】第3実施形態のエアバッグ70では、この膨張用ガスGの流入時、エアバッグ本体71の突出膨張部77が、折り畳まれた状態からエアバッグ本体71が

ら遠ざかる前方側に突出するように膨張する。そのため、突出膨張部77の突出端側である周縁部80の前縁先端部80eに固着されたベルト部85が、その元部86側を固着させたエアバッグ本体71の下縁71a側の周縁部下縁80cの先端部80dを前方に引っ張ることとなり、その結果、エアバッグ本体71の下縁71a側に前方側への引張力F0が発揮される。

【0078】そのため、第3実施形態の頭部保護エアバッグ装置M3のエアバッグ70でも、エアバッグ本体71の下縁71a側に特に張力を発揮させることができ、乗員拘束時、エアバッグ70の車外側への移動を抑えることができる。

【0079】また、第3実施形態でも、ベルト部85が引っ張るエアバッグ本体71の下縁先端部80dの上部に、各分割室76a・76b・76cの前端で構成される上下方向に柱状に膨張する縦棒膨張部78が配置されている(図17参照)。そのため、エアバッグ本体71の展開膨張時におけるベルト部85が張力を発揮した際には、縦棒膨張部78が、剛性を有した棒状の状態となっており、その上端を中心として、縦棒膨張部78の下端を前方に回転させるような回転トルクを発生させることから、展開膨張時のエアバッグ本体71の上下方向の寸法をほとんど縮めることなく、効果的に、エアバッグ本体71の下縁71a側に張力を発揮させることができる。

【0080】なお、実施形態では、突出膨張部77を折り畳む際、カクタス折りした場合を示したが、展開膨張時にエアバッグ本体71から遠ざかる前後方向に突出するように膨張可能として折り畳めれば、突出膨張部77を後方側に蛇腹折りしたり、あるいは、図16に示すように、車内側の後方側へ折り返すだけでも良い。

【0081】また、第3実施形態では、エアバッグ本体71の膨張部72における後端側にガス流入部73を配置させて、膨張部72の前端上部に突出膨張部77を配設した場合を示したが、ガス流入部73をフロントピラー部PFに配置させ、ベルト部85を対応させて、突出膨張部77をエアバッグ本体71の後端上部に配置させても良い。

【0082】つぎに、第4実施形態のエアバッグ90について説明する。第4実施形態のエアバッグ90は、図18に示すように、第1実施形態のエアバッグ20と同様に、頭部保護エアバッグ装置M4に使用されるものである。この頭部保護エアバッグ装置M4も、エアバッグ90がエアバッグ装置M1のエアバッグ20と異なる他、他のエアバッグカバー11・インフレーター16・取付ブラケット17・40等が同一であり、それらに同一符号を付して説明を省略する。

【0083】エアバッグ90は、図19～22に示すように、第1実施形態のエアバッグ20と同様に、可撓性を有した袋状として、ポリアミド糸等を使用した袋織り

ガスGが、図22に示すように、ガス流入部93を経て後膨張部94・連通部95・テーパ膨張部97を含めた前膨張部96に流入することとなる。その際、エアバッグ90は、巻き付けていた図示しないテープ材を破断させるとともに、フロントピラーガーニッシュ12・ルーフ内装材13・リヤピラーガーニッシュ14の後パネル14bを押して、それぞれのドア部12a・13a・14cを開かせ、図18の二点鎖線で示すように、開口Wを覆うように、大きく膨張することとなる。

【0096】第4実施形態のエアバッグ90では、この膨張用ガスGの流入時、テーパ膨張部97が膨張すれば、そのテーパ膨張部97に外装されているベルト部95のリング部108が、テーパ膨張部97における大径寸法の元部側部位97bから、リング部108の内径寸法d0に対応する外径寸法D0の先端側部位97aに、テーパ膨張部97の外周面を滑るように前方側へ移動する。そのため、リング部108が、ベルト部105の元部106側を固着させているテーパ膨張部97の元部側におけるエアバッグ本体91の周縁部下縁先端部100dを前方へ引っ張ることとなり、その結果、エアバッグ

本体91の下縁91a側に前方側への引張力F0が発揮される。

【0097】したがって、第4実施形態の頭部保護エアバッグ装置M4のエアバッグ90でも、エアバッグ本体91の下縁91a側に特に張力を発揮させることができ、乗員拘束時、エアバッグ90の車外側への移動を抑えることができる。

【0098】また、第4実施形態でも、ベルト部105が引っ張るエアバッグ本体91の下縁先端部100dの上部に、各分割室96a・96b・96cの前端で構成される上下方向に柱状に膨張する縦棒膨張部98が配置されている(図22参照)。そのため、エアバッグ本体91の展開膨張時におけるベルト部105が張力を発揮した際には、縦棒膨張部98が、剛性を有した棒状の状態となっており、その上端を中心として、縦棒膨張部98の下端を前方に回転させるような回転トルクを発生させることから、展開膨張時のエアバッグ本体91の上下方向の寸法を縮めることなく、効果的に、エアバッグ本体91の下縁91a側に張力を発揮させることができる。

【0099】なお、実施形態では、エアバッグ本体91の膨張部92における後端側にガス流入部93を配置させて、膨張部92の前端上部にテーパ膨張部97を配設した場合を示したが、ガス流入部93をフロントピラー部PFに配置させ、ベルト部105を対応させて、テーパ膨張部97をエアバッグ本体91の後端上部に配置させても良い。

【0100】つぎに、第5実施形態のエアバッグ110について説明する。第5実施形態のエアバッグ110は、図23に示すように、第1実施形態のエアバッグ2

0と同様に、頭部保護エアバッグ装置M5に使用されるものである。この頭部保護エアバッグ装置M5も、エアバッグ110がエアバッグ装置M1のエアバッグ20と異なる他、他のエアバッグカバー11・インフレーター16・取付ブラケット17・40等が同一であり、それらに同一符号を付して説明を省略する。

【0101】エアバッグ110は、図24~27に示すように、第1実施形態のエアバッグ20と同様に、可撓性を有した袋状として、ポリアミド糸等を使用した袋織りによって形成されるエアバッグ本体111と、エアバッグ本体111の前端側に連結される可撓性を有したベルト部125と、を備えて構成されている。

【0102】エアバッグ本体111は、インフレーター16からの膨張用ガスを流入させて、折り畳み状態から展開して、厚さを増すように膨張する膨張部112と、膨張用ガスを流入させない非膨張部119と、を備えて構成されている。なお、エアバッグ本体111でも、第1実施形態のエアバッグ本体21と同様に、袋織りして各部112・119を形成した後、耐熱性とシール性とを高めるために、表面側にシリコン等を塗布しても良い。

【0103】膨張部112は、ガス流入部113、後膨張部114、連通部115、及び、前膨張部116から構成されている。後・前膨張部114・116は、エアバッグ110の展開膨張時、それぞれ、車両の後席と前席との側方付近の開口Wを覆うように配設されている。

【0104】ガス流入部113は、後端を開口させた円筒形状として、膨張部112の後端側に配置されている。ガス流入部113は、インフレーター16を挿入させ、取付ブラケット17によって、インフレーター16側に締め付けられることにより、インフレーター16と連結されることとなる。なお、ガス流入部113の内周面側にも、耐熱性を確保するために、別途、エアバッグ本体111自体と同じ材料等から形成したインナチューブを固着させても良い。

【0105】後膨張部114は、ガス流入部113と上部で連通されて、非膨張部119の後述する2個の後規制部121a・121aによって上下方向に三室に分割された分割室114a・114b・114cから、構成されている。

【0106】前膨張部116は、後膨張部114の上部から延びる連通部115と上部を連通させて、非膨張部119の後述する2個の前規制部121b・121cによって上下方向に三室に分割された分割室116a・116b・116cから、構成されている。そして、実施形態の場合、前膨張部116の上部の分割室116aには、分割室116b・116cより前方側へ突出する前端側に、展開膨張時に折りを解消して下方へ膨らむように膨張する棒状膨張部117を配設させている。

【0107】非膨張部119は、エアバッグ本体111

が張力を発揮した際には、縦棒膨張部118が、剛性を有した棒状の状態となっており、その上端を中心として、縦棒膨張部118の下端を前方に回転させるような回転トルクを発生させることから、展開膨張時のエアバッグ本体111の上下方向の寸法をほとんど縮めることなく、効果的に、エアバッグ本体111の下縁111a側に張力を発揮させることができる。

【0117】なお、実施形態では、エアバッグ本体111の膨張部112における後端側にガス流入部113を配置させて、膨張部112の前端上部に棒状膨張部117を配設した場合を示したが、ガス流入部113をフロントピラー部PFに配置させ、ベルト部125を対応させて、棒状膨張部117をエアバッグ本体111の後端上部に配置させても良い。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施形態のエアバッグが収納された状態を、車内側から見た正面図である。

【図2】図1のII-II部位の概略拡大断面図である。

【図3】図1のIII-III部位の概略拡大断面図である。

【図4】図1のIV-IV部位の概略拡大断面図である。

【図5】同実施形態のエアバッグにおける非膨張時の展開状態を示す正面図である。

【図6】同実施形態のエアバッグ単体の膨張時の状態を示す正面図である。

【図7】同実施形態のエアバッグの非膨張時を示す縦断面図であり、図5のVII-VII部位の概略拡大断面図である。

【図8】同実施形態のエアバッグの展開膨張時を示す縦断面図であり、図6のVIII-VIII部位の概略拡大断面図である。

【図9】第2実施形態のエアバッグが収納された状態を、車内側から見た正面図である。

【図10】同実施形態のエアバッグにおける非膨張時の展開状態を示す正面図である。

【図11】同実施形態のエアバッグ単体の膨張時の状態を示す正面図である。

【図12】同実施形態のエアバッグの展開膨張時を示す縦断面図であり、図11のXII-XII部位の拡大断面図である。

【図13】第3実施形態のエアバッグが収納された状態を、車内側から見た正面図である。

【図14】同実施形態のエアバッグにおける非膨張時の展開状態を示す正面図であり、突出膨張部を折り畳んだ状態を示す。

【図15】同実施形態のエアバッグにおける突出膨張部の折り畳み状態を示す横断面図であり、図14のXV-XV部位の拡大断面図である。

【図16】同実施形態のエアバッグにおける突出膨張部の折り畳み状態の変形例を示す横断面図である。

【図17】同実施形態のエアバッグ単体の膨張時の状態を示す正面図である。

【図18】第4実施形態のエアバッグが収納された状態を、車内側から見た正面図である。

【図19】同実施形態のエアバッグにおける非膨張時の展開状態を示す正面図である。

【図20】同実施形態のエアバッグの非膨張時を示す縦断面図であり、図19のXX-XX部位の拡大断面図である。

10 【図21】同実施形態のエアバッグの展開膨張時を示す縦断面図であり、図22のXXI-XXI部位の拡大断面図である。

【図22】同実施形態のエアバッグ単体の膨張時の状態を示す正面図である。

【図23】第5実施形態のエアバッグが収納された状態を、車内側から見た正面図である。

【図24】同実施形態のエアバッグにおける非膨張時の展開状態を示す正面図である。

20 【図25】同実施形態のエアバッグを折り畳んで、ベルト部のループ部により棒状膨張部をくるんだ状態を示す縦断面図である。

【図26】同実施形態のエアバッグの展開膨張時を示す縦断面図であり、図27のXXVI-XXVI部位の拡大断面図である。

【図27】同実施形態のエアバッグ単体の膨張時の状態を示す正面図である。

【符号の説明】

20・50・70・90・110…エアバッグ、

21・71・91・111…エアバッグ本体、

30 21a・71a・91a・111a…（エアバッグ本体の）下縁、

22・52・72・92・112…膨張部、

27…張力発揮用膨張部、

29・59・79・99・119…非膨張部、

35・85・105・125…ベルト部、

36・86・106・126…（ベルト部の）元部、

38・88・128…（ベルト部の）先端部、

54…後膨張部、

56…前膨張部、

40 57…連通膨張部、

77…突出膨張部、

97…テーパー膨張部、

108…（ベルト部の）リング部、

117…棒状膨張部、

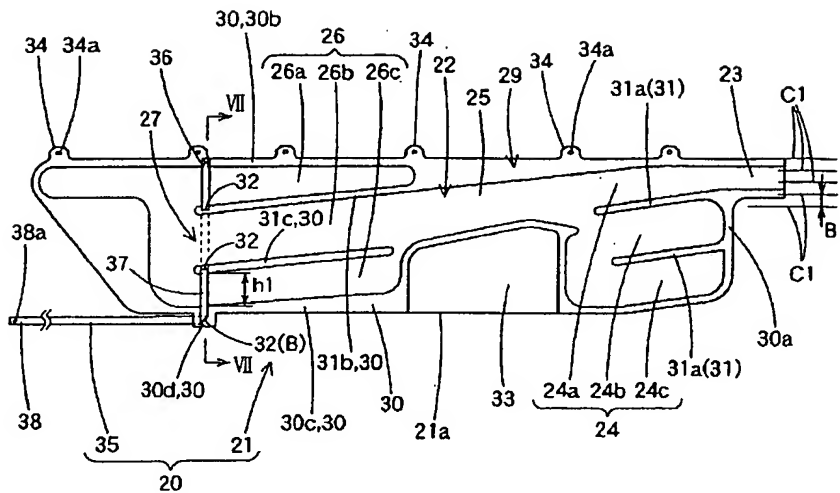
127…ループ部、

128a…スリット、

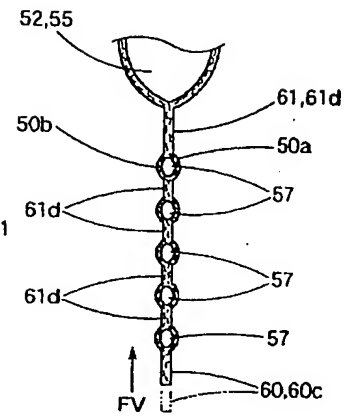
W…開口、

M1・M2・M3・M4・M5…頭部保護エアバッグ装置。

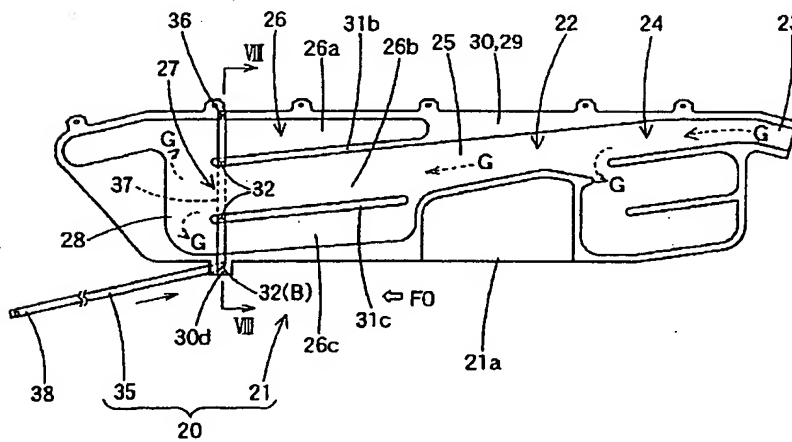
【図5】



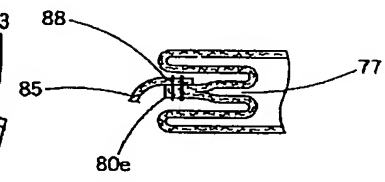
【図12】



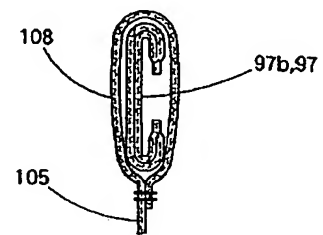
【図6】



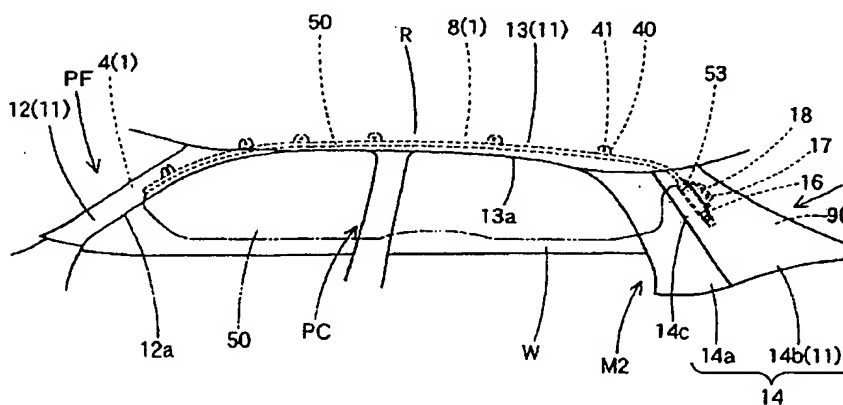
【図15】



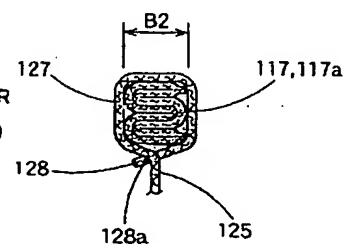
【図20】



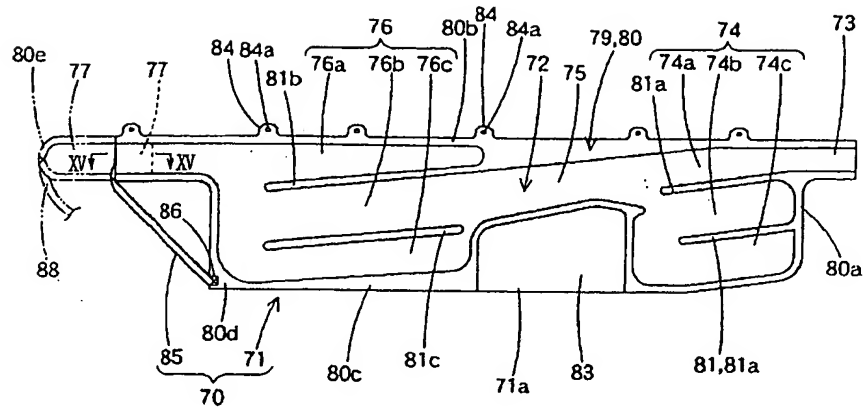
【図9】



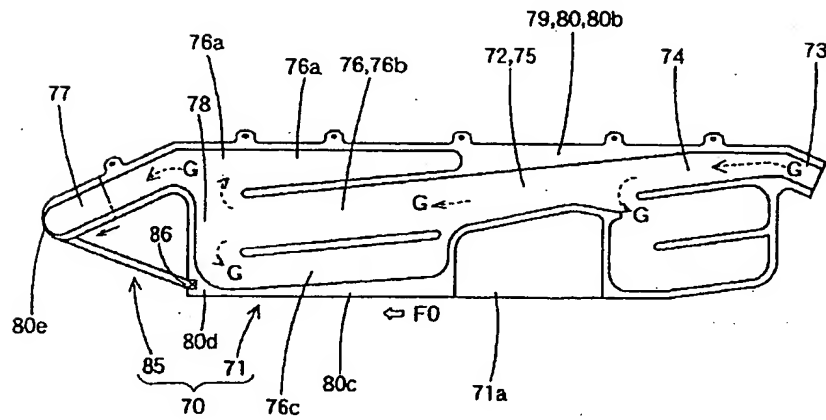
【図25】



【図14】



【図17】



【図18】

